

企業名：デクセリアルズ株式会社

レポート名：デクセリアルズ統合レポート 2022

1.この会社が目指している将来の姿が理解できるか

様々な面から、デクセリアルズの目指す将来の姿を理解することができた。まずは、「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」を企業ビジョンに新しい製品・価値を創造していこうとする精神だ。統合レポートでは、「価値創造のあゆみ」として今まで創造してきた多様な製品・価値が時系列順に写真付きで示されており、デクセリアルズの「新しい価値を創造していこう」としている姿が理解できた。また「価値創造プロセス」として中長期的な課題が明確に示されていたり、「価値創造戦略 中期経営計画 2023「進化への挑戦」進捗」として、新たな価値を創造するためにここ数年間何に取り組んできたかと今後の見通しが具体的に示されていたりと、将来に向けての目標とそれを達成するためのプロセスが明記されており、ビジョンが読者にも詳細に伝わる点が良かった。

ほかにも事業の目標だけでなく、環境についての目標や CSR 目標も示されている点が良かった。例えば、2023 年度 CSR 目標として「自動車向け製品の出荷数量」が製品ごとに具体的な数値で示されていたり、2023 年度環境目標として「CO2」や「水」など細かく目標が示されていたりする点である。

最後に「人財マネジメント」として「2030 年度までの健康経営ロードマップ」が数年刻みで示されており、職場環境づくりにおける目標・倫理的な目標も明確に理解することができた。

2.この会社の現在の競争優位性が理解できるか

デクセリアルズは、その高い技術力を背景に、様々な価値や技術を組み合わせることで新たな価値を創造していくことができる点が企業としての競争優位性であると理解できた。実際に「デクセリアルズの製品はこんなところで使われています」として、スマートフォンや自動車にどのように自社の製品が使われているかが示されており、デクセリアルズの生み出した価値が実際にどのように生かされているかも示されていることで、企業としての強みがより理解できた。また「社会への還元・価値提供」として、デクセリアルズ独自の技術があるからこそ提供可能な製品・サービスや、それによりどのように社会貢献しているかが示されている点からも、企業独自の優位性を感じられた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

その高い技術力を背景に顧客のニーズに合った新しい価値を提供することがデクセリアルズの競争優位性であると理解できた。そして、その競争優位性に持続性があるかも理解することができた。例えば、統合報告書の各所で、近年自動車業界と提携し、製品開発を行っていると書かれていた。近年自動車はEV化や自動運転・脱炭素化など新価値創造が盛んに行われている分野である。そうした、さらなる成長の見込まれる業界と提携していることから、デクセリアルズの競争優位性である独自の技術に裏打ちされた新価値提供に持続性があると考えられる。

また1でも述べた通り、デクセリアルズは目標を明確に定め、計画性のある経営を行っている。さらに「進化への挑戦」として、2021年度までの3年間、売上高・営業利益等の実績が右肩上がりであり、今後もさらなる向上が見込まれると書かれている。このことより、デクセリアルズの新価値の提供は世に大いに貢献しており、さらなる貢献が見込まれることが数値でもわかる。よってデクセリアルズは計画を詳細に立て、都度その自社を省みて、顧客のニーズに合わせてその計画を修正するといった確固たる成長サイクルがあり、その競争優位性に持続性があると理解することができた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

自分はデクセリアルズで自身の人的資本価値の向上を達成できるとは言い切れないと思った。確かに、「人材マネジメント」として、「価値を創る人を創る」・「自己実現サイクルの最適化」を理念・ビジョンに、入社時からの手厚い研修や次世代リーダー育成のために様々な取り組みを行っていることが分かった。さらに「女性活躍推進」などの小見出しの下で、女性管理職の数の推移など具体的な数値が示されており、幅広い人が活躍できる環境を作るために様々な取り組みをしていることも分かった。しかし、全体を通して社員が「自ら学び、自ら考え、自ら行動し、成長し続けるように」、「新しい価値を創造する社員を育成」と書かれているが、その「成長」「新しい価値を創造する社員」とは具体的にどういったことなのかがわかりづらく、どういった会社なのかを深くは知らない読者からするとあまりにも抽象的な目標のように思えた。特に、具体的にどういった力を持つ人材を求めており、どういった力は働くうちに身につけられるのかがわかりづらかった。そのため、自分の思う自分の強みがデクセリアルズでは必要とされているのか、それが生きるのか、それを伸ばすことができるのかを思い描くのが難しいと感じた。もっと新入社員の率直な意見や、どういった能力がどのように生かされているのか、「会社」視点の意見だけでなく「新入社員」視点の意見が具体的に示してあると読者が自分の価値向上できるかのビジョンを抱きやすかったと思った。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

まず報告書のよかった点としては、1、2、3で述べたように、事業・環境・人的資本など様々な観点から会社の将来の姿、目標が具体的に示されている点、「独自の技術に裏打

ちされた新しい価値の創造」というデクセリアルズの価値・強みがどのように世に貢献しているのか具体例に基づいて明示されていた点などが挙げられる。

私の考える改善余地としては、4 で述べた通り、人財マネジメントに関して「会社」が何をしているのかはわかりやすかったものの、「新入社員」には何が求められるのか、どのような力が伸ばせるのかが分かりづらい点である。そのため、会社としての魅力は感じても、読者は自分の持つ価値がデクセリアルズで生きるのかどうかが分からず、入社した後の自身のビジョンが抱きづらく、入社したいとは強くは思えないと思った。改善のためには、入ってよかったこと、伸ばすことができた力、どのような人材とともに仕事をしたのかなどの率直な意見を書くなど、「会社」視点だけでなく「新入社員」視点の意見・具体的な情報をもっと載せるとよいと思った。

レイアウトに関しては、「経営目標」「環境」「人財マネジメント」などテーマごとによくまとまっておりわかりやすく、適宜インタビューも載せられており、読みがいのあるレポートでよかった。